

第13期 社会教育委員の会議（第10回） 会議録

● 開催日時 令和4年7月15日（金） 午後2時00分～4時00分

● 会場 たつみ集い交流館

● 出席者

社会教育委員（7人）

大島 英樹	野川 春夫	竹高 京子	大畑 廣行
工藤 宜	鈴木 弥生	熊谷 晴弘	

事務局職員（3人）

葛飾区教育委員会事務局参事、生涯学習課長	佐藤 秀夫
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係（社会教育主事）	与儀 睦美

オブザーバー（2人）

生涯スポーツ課長	柿澤 幹夫	
生涯スポーツ課事業係長	張替 武雄	出席者 計12人

次第

1 報告

(1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

2 議事

(1) 社会教育関係団体への補助金交付について

(2) 生涯学習課の取組の振り返り

(3) 報告書の構成について

(4) 今後の会議の進行について

(5) その他

3 にこわ新小岩（新小岩地域活動センター）の視察

【配付資料】

○第9回会議録案

○教育振興基本計画策定検討委員会関係資料(抜粋)[資料1]

○答申(写し)[資料2]

○報告書の構成案 [資料3]

○第13期社会教育委員の会議スケジュール(案) [資料4]

○にこわ新小岩関係資料

○松田道雄著『等話』新評論

○関連事業チラシ

(亀参まつり,親子そうさく教室,HIP HOP,「うたってみよう、奏でてみよう、きいてみよう」)

— 開会 —

○事務局 皆さん、こんにちは。新型コロナの第7波がやってまいりまして、今のところ区役所としては施設の閉館や、事業の大きな変更の動きはございませんが、今後拡大が顕著になればいろいろなことが出てくるかなと思っております。

本日はお忙しいところ、しかも定例の場所ではないところで開催ということで、ご案内も不十分で迷われた方もいらっしゃるかと思います。ご迷惑をおかけしました。

ただいまから第10回の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

欠席のご連絡は、風澤委員からいただいております。

本日、傍聴はございません。

資料についての確認をさせていただきます。お手元に次第が1部、それから次第にありますとおり、教育振興基本計画策定委員会の資料としまして資料1、それから資料2としまして社会教育関係団体への補助金交付について、それから資料3報告書の構成について、資料4今後の会議の進行についてということでご用意をさせていただいております。

また、机上に第9回会議録の案を配付させていただいております。内容をご確認の上、修正箇所がございましたら、今月28日木曜日までに事務局にご連絡をお願いいたします。

なお、修正いただいております第8回の確定版の会議録につきましては、すでにホームページに掲載をしております。

また、本日はここでの協議の後、にこわ新小岩の視察を予定しております。協議をおおむね15時半ぐらいに終了しまして、こちらで生涯学習課長から施設の概要についてご説明をさせていただいた後、移動して施設見学という予定です。

それでは、この後の議事につきましては、大島議長にお願いをいたします。

1 報 告

(1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

○議長 それでは改めまして、皆さん、こんにちは。今、事務局から説明がありましたとおり、議事が多く、さらに視察もありますので、1つ1つはあまり時間をかけられないかもしれませんが、どれも大事なことで、皆さんのほうからたくさんのご意見を頂ければと思います。

では、早速ですけれども、1番目の、「葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会」の報告に進みたいと思います。こちらは会議にこの席からもたくさんのメンバーが出ているのですが、社会教育委員を代表して竹高委員が出席されていますので、代表としてのご報告を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

○竹高委員 皆さん、こんにちは。議長と副議長も出ていらっしゃるって、私は必要ないのではないかと本当に思ったのですけれども、報告させていただきます。

お手元の資料にある、資料1の部分ですね。その真ん中に社会教育関係者に送るアンケートがついています。

本来ですと、この会議に出たときに委嘱状ありきで議長、副議長とか決めてから、本来の議題に入るのだと思うのです。でも、当日、このアンケート用紙が机上配付されていたものですから、私は、資料は1週間前に頂くことができるものだと思っていたので、これから先の基本計画を立てていくのに当たって、大事なアンケート調査が当日机上配布では意見がきちんと出ない、ということをおっしゃっていただきました。アンケートを持ち帰って、その中でどういう形でしていくべきなのかというのを熟考させていただいて、今月中にメールで皆さんが送るという形で、最後は締めました。

30名いらっしゃる委員が思い思いのご意見を述べられ、熱心に考えていらっしゃる地域の方を含め、いろいろな団体の代表の方のお話を聞いて勉強になりました。意見交換は本当に大切だと思うのですが、何を決めていくのかということ、もう少し勉強してきていただいて、それに向かっていけたらいいのではないかなと感じて帰ってきました。内容的にはまだこれからで、もう1回仕切り直しという回があるようですので、その先でご報告させていただきたいと思います。

○議長 ありがとうございます。それでは会議に野川先生がご出席されていたので、何か併せてありましたら。

○副議長 特にないです。

○議長 私は、副委員長をご指名頂いたところなのですが、教育振興基本計画という、国が作り、都道府県が作り、市区町村という形で、法律にのっとってできるものなのですが、3期目になる今回の大きな課題としては、やはりコロナもあったことで、これまでのように経年の予想をできるような形での計画づくりでいいのかという問いが非常に強く投げかけられました。事務局のほうは、想定としてはこれまでのように直線的に計画づくりを進めたいという意向が見られたのですけれども、委員の皆さんから、それでいいのかという問いがあったので、先ほど竹高委員からお話があったように、この先は仕切り直しということが起きそうだということです。

ただ、非常に建設的な仕切り直しだと思うのですね。無理やりブレーキをかけようと

いう話ではなくて、当たり前真っすぐ進んでいく今の世の中ではないのではないかと
いうことを確認しようということなので、動き出すまで少し時間がかかるかもしれませ
んが、まとめに向かうときには、より意味のあるものになるのではないかなと思ってお
ります。また進みましたらば、ご報告をしたいと思います。

委員の皆様から何かご質問はございますか。

○竹高委員 せっかく皆さんにお配りしているので、アンケートの部分を見ていただい
て、何かご意見があれば事務局のほうに言っていただければ、私のほうにつないでいた
だくようにしますので、今月中に、ご意見があればぜひおっしゃってください。私が代
表で書かせていただきますので、よろしくお願いします。

○事務局 事務局にご意見を集中していただければ、竹高委員にお渡しします。

○議長 どうぞよろしくお願いいたします。

そうしたらたくさん議事がありますので、前に進めてまいりたいと思います。

1 議 事

(1) 社会教育関係団体への補助金交付について

○議長 では、2番目の議事に進みます。1つ目ですけれども、「社会教育関係団体へ
の補助金交付について」、こちらはお手元の資料2を御覧いただければと思いますが、
先月、予定を大幅に超過して、この補助金交付についての審議を皆様にしていただきま
した。その中で、意見のところに書きましたとおり、「上記5団体への区補助金の交付
は妥当である」と。「ただし、以下の点に留意して交付いただきたい」と。「一般社団
体法人 葛飾区体育協会補助金申請のあり方について、指導を徹底すること」。ここの部
分ですね、改めてどういうふうになったかということについて、生涯スポーツ課のほう
からご説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○生涯スポーツ課長 それでは生涯スポーツ課長の柿澤でございます。先月、ご説明が
行き届かなくて大変申し訳ございませんでした。体育協会のほうに聞き取りをしまして、
内容について確認してまいりましたので、ご説明したいと思います。

お手元のほうに、先月、こういった形式の資料を1枚配らせていただいております。
こちらの団体の目的、申請の要旨、補助対象事業につきましても、今回は割愛をさせて
いただきたいと思います。補助基準といたしまして、生涯スポーツ振興に関わる経費と
いうことで支出をしてございます。

前回、課題となりました令和3年度の決算と令和4年度の予算の差額についてのご説

明となります。まず大会出場費のほうは、都民体育大会の参加費ということで、令和3年度の決算としましては3競技程度の参加ができたということで、そちらの決算額が4万5,700円となっています。こちらの旅費交通費に対する補助をしているということでございます。令和4年度の事業につきましては、こちらも都民体育大会の29種目ほどが全て開催されるということでの予算立てということで聞いております。

大会補助金につきましては、こちらも都民大会ですが、こちらの大会のほうはバウンドテニスやグラウンドゴルフ、ニュースポーツ系のスポレクふれあい大会というところの種目になっています。3年度については開催されなかったのが0円ということです。4年度につきましては、6種目ほどで種目数は少ないのですが、出場する選手は多いということで、予算は20万円ということになっています。

3番の保険料につきましては、3年度については、実施をした大会等が少なかったため決算額が少なくなっておりますが、4年度は、区民大会やスポーツ大会など、いろいろな各競技団体の種目も全て開催されるということでの見積もりで、46万7,000円の予算立てをしているということでございます。

続きまして、4番の振興費補助につきましても、3年度については、実施ができた区民大会等の種目が少なかった関係から76万円の決算となっておりますが、4年度につきましては全種目を実施していくというような形での124万円、各団体のほうに補助をしていくということで予算立てをしているところでございます。

5番の都民大会の奨励金につきましては、都民大会で8位以上に入賞したところの競技について、表彰をしていくことを考えていると聞いております。

6番の講習会、公益事業費につきましては、昨年度67万1,000円、今年度は50万円ということで、実際の中身といたしましては、資器材等の準備等についての、会場設営等に係る委託費用、または講師謝礼について50万円の予算を組んでいると聞いております。昨年度との差額の17万円につきましては、昨年度は、例えばオンラインの会議について、まだノウハウを持っていなかったということで、そちらのほうの企画についても業者に委託をしていくような形で予算立てをして、結果としては17万円ほど今年度より多かったということで聞いてございます。今年度につきましては、そういった企画についてもノウハウが取得できたということで、自分たちで企画をしていくということで聞いております。

最後の運営費のところですね、132万円と46万8,000円、差額87万円につきましては、昨年度は、コロナ対応で体温計等の機材、アルコール等につきまして、大量に購入したということです。また、会議室を借りる場合に、大きめの会議室を借りなければならぬところがあって、昨年度は経費がかさんでしまったということです。3年度の決

算に関わる特殊な事情ということで、私どもは考えております。体育協会としては、運営費については46万8,000円ぐらいのところでは積算をしているということで聞いておりますので、今後につきましてはこの程度の予算規模で収まっていくのではないかと考えられます。

簡単でございますけれども、私の説明は以上になります。

○議長 ありがとうございます。先回、疑問とするところではご説明いただきましたけれども、委員の皆さん、いかがでしょうか。

○竹高委員 コロナ対応対策費ということで87万円、それだけかかったのであれば、今年もその半分以上はかかるとは思わないといけないと思うのです。やはり、運営費の見積もりは低いのではないかと思います。大きい会場を借りなければいけないのは、今年も同じはずなのです。講演会をやるときにも、1席ずつ空けてという形であることには変わらないと思うので、やはりこの部分の見積もりが甘いのではないかと感じます。そのため、この差額というのが運営費に出てきて、違和感がすごく出てしまうのではないかと。

使わなければ戻せばいいのですから。私たちが違和感を覚えたことは、多分来年、再来年も同様かと思えます。予算としては、普通に正しく見積もって、必要なことは必要なこと、必要なかったら戻すという形をお持ちになられたほうが、公正な評価が得られるのではないかと思います。

○生涯スポーツ課長 私のほうも、体育協会とお話をしている中で、そういった形での予算立てをしていくようなご意見を頂いたというのは、お話は差し上げたのですけれども、不足については取りあえず自主財源を充てます、ということです。決算額等については、もうちょっと膨らんでいく可能性はあるかなと思いますけれども、予算立てとしては今回の予算立てをしていくと聞いているところです。

○竹高委員 でも、予算立てがオーバーしたら自主財源のほうでと言うなら、補助金は必要なくなりますよね、自主財源でできるなら。やはりそこはきちんとした見積もりで、きちんとした決算でという形のほうが、どなたが見ても普通に分かることなのではないでしょうか。

○生涯スポーツ課長 実際には、例えば無料で使えるような会場等も探しながら運用しているところも見受けられますので、そういった努力もしながらというところのようです。

○議長 運営費のところが大きく差がありましたので目について、どういう実態なのかというところが気になったところで、その増えた理由というのは今日のご説明で明らかになりました。ですけれども、それが今後どんなペースでいくのかという見積もりに関

しては、考え方の違いというのがある、今回出てきたものでは少ないのだということまでは分かりましたので、竹高委員のお話は、ご意見ということでよろしいでしょうか。これは不都合な見積もりであるということで再提出を、ということではなくてよろしいですか。

○竹高委員 それは、大丈夫です。

○議長 ありがとうございます。

恐らく、先ほどの基本計画のお話と同じで、今までの延長で、何でも計画通りに大体収まるという話ではない状態だからこそ、正直に反映させたほうが結果として納得がいくのではないかというお話であったと思います。今、多少おかしな数字が出てきていても、きちんと説明がつくのであれば、そのほうがよっぽどまともであるというお話なのかなと思いましたので、とても大事なご指摘として受け止めておきたいと思います。

○生涯スポーツ課長 ありがとうございます。体育協会に対しては、そのように対応していきたいと思います。

○議長 よろしくお祈りします。それでは委員の皆様、この答申についてもこの文言どおりで了解を頂けるということでよろしいでしょうか。

(「了解」の声あり。)

○議長 ありがとうございます。

(2) 生涯学習課の取組の振り返り

○議長 では、続きまして(2)生涯学習課の取組の振り返りに参りたいと思います。しばらく時間が空きましたので、皆様の記憶をよみがえらせるには多少の時間も必要なのかなと思いますが、今日は議事録というのも、その前の話になってしまって、お手元にお持ちの方がいらっしゃいますか。

○生涯学習課学び支援係長 概略をざっとお話をしたほうがいいですか。

○議長 よろしいでしょうか。

○生涯学習課学び支援係長 ご報告をした中身の概要を、お話しいたします。

生涯学習課としては、このコロナ禍の中で、特に令和2年度は緊急事態宣言等もございまして、実際の対応がなかなか、何がどうやればいいのか分からないという状態の中で、中止せざるを得なかった事業が多かったと思います。

特に公共施設がクローズになった関係でいうと、やりたくてもできなかったという現実があったわけですが、それと比較して令和3年度に関しては、施設がクローズになる期間が短かったというのもございますが、何とかして学びを止めない努力を、そ

それぞれの事業の特性を生かしながらやれないかということで、オンラインを使った講座の展開であるとか、対面式とオンラインを併用したハイブリッドもございましたし、オンラインだけというものもございましたし、それから一部の事業ですが、自宅でも御覧いただいて、実際にそれを生活に活かしていただくような子ども食育クッキングの動画作成であるとか、限定公開のY o u T u b eの配信であるとか、今現在、区役所はどうしてもI C Tが遅れている関係で、機器等が十分ではない中ではありましたけれども、職員が工夫を凝らしながら事業を展開してきたということをご報告させていただきました。

また、文化協会等大きな団体の発表の場については、参加される方の感染予防ということ念頭に置くと、なかなか開けない状況があったということも報告をさせていただきました。

それから、かつしか区民大学の取組の中でも、区民大学自体は全庁的な取組を、事務局を生涯学習課が担っているということなのですが、講座数としては、多分令和2年度は半数ぐらいになってしまったし、令和3年度は少し回復したけれども3分の1ぐらいは中止という状況はございましたが、先ほど申し上げた講座の工夫ということで、オンライン講座であるとか、Y o u T u b eの配信であるとか、ハイブリッドでの開催であるとか、そういったところの工夫をしながら、令和元年度以前の数字にはなかなか戻りませんが、受講者数が5,000人弱ぐらいまでは回復ができている状況はあるかなと思っています。

ざっとそんなご報告をさせていただいたと思います。

○議長 この振り返りという時間をとることで、最終的なこの会議の記録をまとめていくに当たってこれまでの取組を評価する、そのポイントを発見いただく、そのための時間と思っています。委員の皆様、ここのはいいなと思ったとか、あるいはもうちょっと頑張ってもらいたいなということを具体的な指摘を頂くのが何よりかなと思っていますので、指摘いただければと思いますが、いかがでしょうか。

私から質問したいのですが、担当者として思いがけない成果とか、そういうものはありましたか。役所というのは、計画を立てて進めていく基本姿勢がある中、そういうところを飛び越えてしまうようなことというのは、未来に向かっての財産だと思うのです。

○生涯学習課学び支援係長 先ほどご説明したY o u T u b eでの動画配信をした子ども食育クッキングの動画の視聴者数が、一般的な区役所がY o u T u b eで公開している動画閲覧数の何十倍です。幾つぐらいでしたか。

○事務局 5,000以上は行っています。

○生涯学習課学び支援係長 葛飾区の公式Y o u T u b eチャンネルの場合、1,000台

までいくのはあまりないのです。コンテンツの中身にもよりますが、今回、子ども食育クッキングの動画を作って、家で試して、完成の画像を送ってねとか、そういうやり取りをやったのですね。その効果があったのかもしれませんが、リアクションが結構あったのです。

子ども食育クッキングという事業自体は、会場に来てもらって、親子で一緒に楽しんで、食べて、おいしかったねと帰ってもらう事業なのですけれども、もともとは「食育」ですので、ご家庭で実際にメニューに取り入れるとか、アレンジをするなどということが目的としているので、そういう意味では、会場ではできなかつたけれども、動画を見ることで実際にご家庭でお作りになって、それをこっちにちゃんと作ったよと送ってもらうところまでできたというのは、今までそういう発想はなかったもので、苦労はしましたが、成果としては上がった事業なのではないかと考えます。

○議長 具体的にはどのようなやり取りですか。

○生涯学習課学び支援係長 自宅で作りますよね、レシピを公開するので。作りましたという完成した画像をこちらに送ってもらう。

○鈴木委員 ビデオで撮影して、それを送るのですか。

○生涯学習課学び支援係長 写真です、画像です。動画ではなくて。

○鈴木委員 写真だけなのですか。

○事務局 写真だけです。できたものを、写真で送ってもらって、そうしたらこちらから、ちょっとおまけをまたプレゼントする。その送ってもらった写真を入れたしおりを職員が手作りして、それをプレゼントしました。

○議長 それは、どういうふうな流れですか。

○生涯学習課学び支援係長 YouTubeの中に作ったらぜひ画像を送ってね、という情報を埋め込んで、課にメールで添付をして送ってもらう。そういう意味では非常に面倒ですよね。普通の投稿のいろいろなアプリであれば、そこで「いいね」を押すとか、何かをやって返信をするということが簡単にアプリ内でもできるわけですけど、それよりも面倒な作業にもかかわらず、ちゃんとリアクションをしてくれているというところは、ある意味、取り組んだことへの満足度であるとか、そういうことが楽しかったということで、わざわざ送ってくれていることにつながっているというのが、あまり当初予定していなかったというか、そんなにリアクションはあまりないのかなと思いつつ取り組んだところであるけれども、実際にはそういうリアクションがあったということです。

○議長 ありがとうございます。イメージはちょっとわいたのですが、そうするといういろいろ欲がわいてきているけれども。それが今の事業にかかわらず、例えばリアクションのもらい方として、投稿いただく掲示板的なものだったり、どこかページだったりと

いうところに張りつくとなると、いつまでも見れるとか、誰かが集約しただけでなくて次々とほかの人のも分かれるとか、そういうようなこともできるのではないかとも思うし、やっているところはないのかとか、いろいろ気になるのです。

○生涯学習課学び支援係長 全く余談で、今取り組んでいるわけではないのですが、今、お話のあった要は投稿した動画に対するリアクションが同じアプリの中でできるということである、YouTubeは葛飾区の公式YouTubeもそうだし、生涯学習課のYouTubeもそうなのですが、返信ができない形にしているのです。誹謗中傷も含めていろいろなことが想定できるので、基本的にはリアクションはできないスタイルになっています。それだと今、議長がおっしゃられたようなことはできないので、何かできるような形を考えるとすれば、ほかのアプリを活用して、やり取りをするということは可能だと思っています。

実は生涯学習課としては、今、なかなか生涯学習に関する情報がホームページだと埋もれてしまっている、それを表に出して生涯学習課はこんなことをやっているよということを、ポータルサイトなり何なりを作って展開をしようということ、昨年度ぐらいから考えているのですが、ご存じのとおりポータルサイトは、葛飾区は例えば協働サイトであるとか、花いっぱいのもちづくりのサイトであるとか、様々な個別のサイトを展開しているのですが、葛飾区には1つ大きいポータルサイトがあるので、そこの関係であるとか、個別に作ることへのコストの悪さであるとか、そういったところから考えると、生涯学習課が今手を挙げてポータルサイト作りますと言っても、お金もなかなか厳しい状況がある中で、今現在、無料で使えるクラウドサービスを使って何かしら情報発信ややり取りができるクラウドサービスを探していたところ、ちょうどクラブチームとか、研究団体とか、そういったところが発信するクラウドサービスで、情報管理ができたり発信ができたり、入会を受け付けたり、有料のサイトを閲覧できたりというポータルサイトがあるので、それをうまく活用して、今、我々がやろうと思っている、先ほど議長がおっしゃった双方向のやり取りであるとか、それから以前からできたらいいなと思っていた受講者管理であるとか、ホームページで埋もれている生涯学習課の事業がトップにバナーとして張られるとか、そういったことができるというのを今、検討しております。

なので、また具体的になったら、この会議の中でもご報告させていただきます。無料で、しかも情報が、ある程度プライバシーも守られるとすれば、区の情報システムセクションもそれだったらいいよと多分言ってくれるので、そういう導入の仕方はあるかもしれません。

○議長 ありがとうございます。スポーツ関係なんかだと、より大きな人数の方の参加

が見込めるような催しとかのときにも、かなり適応可能なのかなとかいろいろ想像したところでは。それはでも思いがけない成果、とても具体的なものでためになりました。

○鈴木委員 質問についてお聞きしたいのですけれども、区民大学の講座も数を絞って開催されていたと思うのですね。防災はやっぱり人がたくさん集まりましたか。何回かやられたと思うのですけど。

○生涯学習課学び支援係長 区民運営委員会の講座ですね。殺到した状況ではないと思いますが、多分会場の関係で定員も絞ってやったと思うので。ただ、定員ぐらいの応募はあったようです。

○鈴木委員 地域柄、心配しているところがあって。

○生涯学習課学び支援係長 今、ご案内の区民運営委員会の企画講座で防災に関する講座を葛飾のいろいろな地区でやるという構想があって、そのうちの何本目かを昨年やったのですけれども、実際には定員ぐらいの参加はあって、どんどん進化しているというか、進め方の部分にも運営委員が絡んでいるので、そこは運営委員が入れ替わった部分もあるみたいですけど、少し内容をまた洗練された状況でやっているようです。

○鈴木委員 台風とかも来ているので、川も近いからやっぱり多くの人がお勉強してもらったほうがいいなとは思いますが。参加すると、その地域のことをよく分かったというのがありましたので、たくさんの人に来てもらう、若い人に来てもらえるような、工夫というの難しいかと思いますが、やっていただければと思います。

○生涯学習課学び支援係長 区民大学の担当に伝えます。

○事務局 まだ過渡期の状況ですが、区民大学のほうは特に参加者数がかかなり落ちていきます。もちろんコロナ対策で定員も少なくしています。コロナ前は定員を超える講座がたくさんあったのですけれども、今年度4月に入ってから定員を超える講座はほとんどないということです。定員を絞っているのだから、前よりも定員を超えて応募がたくさんあってもいいと思うのですけれども。

これは、コロナの影響なのかもしれない。1回コロナで落ち込んだのが、なかなか参加者数が上がらないのかなという感じがしています。スポーツ事業はどうでしょうか。

○生涯スポーツ課事業係長 スポーツでいうと、やはりコロナ前、週1回の運動をしている割合、スポーツ実施率で68%まであったのですが、最新のアンケートでは62%までやはり落ちております。地域スポーツクラブについても、こやのエンジョイクラブは700人ぐらいの定員がいたのですが、コロナを機に休業していたときもありますし、再開しても定員を設けて、今までは好きなプログラム全て参加できますというのを、コロナということで2種目までですよという制限をしたところ、500人ぐらいまで会員が減ってしまったということも聞いております。

オンラインについても、いろいろ工夫して自粛生活のときには動画でストレッチができるようなYouTubeチャンネルをやはり同じように作りまして、こちら最初はすごく好評で、16万回ぐらい視聴がありました。できなかったときはこういうことでやっていただいていたのですが、やはりだんだん少しずつ社会が動き始めると、やはりスポーツは実際にやりたいという要望が多くて、RUNフェスタについてもオンライン大会という形でやりましたが、1回目をやったときは1,000人近く集まったのですが、翌年はもう200人行かなかったぐらい。

オンラインもだんだんニーズが減ってきて、やはりなるべく対面で、対策をとってやっていきたいというのが、区民のニーズなのかなと感じております。

○議長 ありがとうございます。かなり状況に左右されて、こっちのほうがいいなと変わってってしまうということなのではないでしょうか。

○副議長 民間フィットネスクラブなんかでも、まだ7割に戻ってきていないといえますよね。そうすると本当に固定費だけですからすごく大変だということです。

物珍しいものに最初は飛びつくけれども、同じものだと飽きるのですよね。画面だけを40分も50分もじっと見て、それを1日3つも4つもなんて、ちょっと無理ですよね。やはり議長がおっしゃったように、対面式というか、タッチという言い方をするのですが、やっぱりヒューマンタッチがもう一度見直されてきたということで、それをどう工夫をするか、それが必要になってきている感じがしますね。

いろいろ話を聞いていますと、知識とか体験のシェアリングというものが、生涯学習の中に求められているのではないかと。体験、知識、あるいはノウハウをシェアするようなものというのは、いろいろな場面があるのですよね。例えばスポーツでもあるし、介護でもあるかもしれないし、クッキングでもあるかもしれません。

ちょっと、分からなくて恐縮なのですが、葛飾区も4つぐらいのエリアに分けてみて、どのエリアがどういうことに反応するのかということのを人口動態か何かと兼ねてやってみるといっても面白いかもしれないというのが1点。

あとは、親御さんたちはみんな自分の子どものことは非常に熱心に考えますから、子どもを上手に使ったコンテンツというのを短い時間でやってみる。例えばレファレンスとして何か知りたいということなのか、あるいは何かになっていくためにはどんなことが必要ですかということを通して学んでいくような学習タイプのものがこれから生涯学習では求められるかもしれないという感じがします。

○生涯学習課学び支援係長 まさに区民大学が10年たってこれからの区民大学を考える上で必要な要素を今、副議長がおっしゃったと思います。何を学ぶか、何をメニューとして用意するかということもありますけれども、学び方というか、どういう学びを

作っていくかみたいなところでいうと、例えばコース制であるとか、単発のいろいろな内容ではなくて、例えばこれとこれを受けるとこういうことが身につくよとか、直接資格に結びつかなくても、単発ではなく、内容的な類似性を持ったものをコース設定するとか、そういう見せ方や、そういったものが求められるのかなという感じがしているので、新たな展開として、そういったこともあり得るかなとは思っています。

○副議長 もう1点は、スマホでもそうですし、ネットでもそうなのですが、あまり皆さん悠長に待てなくなってきました。今すぐ情報が欲しい、すぐ教えてほしいということがあるのですよね。本来、コース制でだんだん分かっていくのだよとするのか、これとこれが分かればこの次これに行っていよいよみたいなの、そういうプログラムの作り方のほうが今後は合ってくるかもしれないですね。定番の12週間プログラムをずっとやるというよりも、ホップ・ステップ・ジャンプしないと。レベル別のものを幾つか作ってあげないといけないかなという感じがしますね。

○議長 振り返りから、提案、提言にまでつながるようなことだと思います。

○竹高委員 振り返りでいうと、YouTubeなどのネット環境を整えて、コロナ禍の中で子どもたちをはじめ大人も使うようになったと思うのですが、最終的に、やっぱりコミュニケーション能力としてはネットを通してのものではなくて、生でちゃんとコミュニケーションをとっていくことの重要性というのが、コロナ禍でなおさら分かったように思います。

ホップ・ステップ・ジャンプはいいのですが、今の若い人は（こういう言い方はあまり好きではないのですが）、早送りドラマとか映画とかも見たりするというのを聞いて、それはちょっとびっくりだなと思うのですね。ホップ・ステップ・ジャンプの間のところに重要な情緒感というものが入っていて、それを全部を落としてきているのではないかなというのがすごく心配で。

それこそ私は小説を読むのが好きだから、アニメなどになってしまっているものよりも、文章の中から受け取る自分の感情というのが大事だなと思うのですが、それを読むことができない子どもたちが増えるのは、本当に非常に困るし、それがコロナ禍のマイナスの資産だとしたら最悪なことだなと思うので、それこそ私が所属している団体、学校図書館ボランティア連絡会といいますけれども、1冊でも多くの本を子どもたちに手渡したいという思いと、それをボランティアとして支えているお母さんたちに、いい本を書かれている先生方を呼んで、それを持って行ってほしいなという、その情緒というか、良さというものを胸に秘めていてほしいなという思いで活動をしているのですが、そういうものを一気に飛ばしてしまうような情勢になってきているのはすごく危機感を感じます。

それから、子どもたちが、YouTubeやTikTokで顔を出しているのがすごく怖い、ということを考えないのが怖いと思います。それを許している親御さんが、そこに位置情報とかそういうものが入ったまま写真とかも上げさせてしまったり、そういう危機感のなさが、日本人は甘いというのをすごく感じますね。

○議長 大学の講義も、動画に撮られている方は倍速で見られるそうですし、早稲田大学の例でしたか、5本ぐらい同時に倍速で再生して、というのがありました。

○竹高委員 それは勉強ではないですよ。

○議長 インプットの効率にはなるのでしょうかね。1秒を1秒として感じられることをどこまで正当なものとして主張できるかという。スポーツを早送りしたらすごいですよね。100メートル5秒とかになりますしね。時間というものが大きなテーマになるかもしれないですね。

○竹高委員 皆さん、朝ドラを早送りでは見ませんよ。15分。大河ドラマで45分。いくら長いといっても、それは情緒の欠如につながるのではないかなと思います。

○生涯学習課学び支援係長 間には理由があるわけですからね。

でも、うちの子は倍速で見えていますよ。何が楽しいのか全く分かりません。

○竹高委員 時間がもったいないと言うのです。もったいないのは、それをやっている時間だと思います。

○生涯学習課学び支援係長 私もそう思います。

○竹高委員 これから先が、ちょっと心配です。

○議長 でも、それでいけば人生100年時代を想像している、ここにご列席の皆様と、今後100年を倍速で生きる人は50年ぐらいで人生は十分という話に、ならないですかね。いや、だって効率よくいけば半分でオーケーということにはならないですか。

○大畑委員 価値観の違いが随分コロナでそれぞれ違ってきたのではないですか。我々の年代の価値観と、画像で育ってしまった子どもたちの価値観と、いろいろな表現を含めて何か違ってきている。これからどういう方向に行くかというのは分からないですけども、ただ、この2年間続いた閉塞の時代の中で、それぞれの持つ感性はそれなりに偏ったところで進んできてしまった。今まではそれはごっちゃになって、いろいろなわだかまりの中で徐々に許されていったものが、今はわだかまりがないために一気に出てきてしまった。これはどっちが正しいとかという世界ではなくて、これからお互いにどこかで認め合っていないといけないという感じがしますね。

○事務局 私が区民大学を立ち上げたときには、人づくりにつながる事業を区民大学の中でやるつもりだったのですけれども、今はそのようにはなっていないということもあって、違う枠組みで学び支援係のほうで新たに、団体・サークル支援講座を立ち上げ

ました。その中で、今、竹高委員や副議長がおっしゃった、人と人のつながりといったところが、このコロナの中でオンラインとかやりながらも、そちらの大事さが逆に見直されてきているということがあります。

団体・サークル支援講座では、ハイブリッド方式で、会場とオンラインのやり取りと両方でやっていて、オンラインのほうの人もグループを作ってグループ討議もしてもらって、話し合いもできているのですが、やはり会場とのかなり温度差がありますし、盛り上がり方は違います。それから、会場の中ではいろいろな動きが分かるので、周りの人が求めていることを感じ、受け取って、情報や経験を交流し合うことにつながったりもしました。多少脇道にそれるようであっても、予期しなかったような収穫があったりするのは、そういうことがオンラインでは少ないし、講師自身も、ネットで配信したり、そういうことを得意としている講師ですら、自分はやっぱりオンラインではなくて対面がいいのだと、そこに戻ってきていると、そういう話もありました。

このコロナの中でいろいろ工夫をしながらやっているけれども、やはり対面で、表情だとかいろいろな動きだとか分かる中でいろいろな人が発言する。一方的に聞くのだったらオンラインでもいいかもしれないのですけれども、そういう交流ができる場所では、対面が大事だということを、逆にコロナの中で見直されてきているということは、講座の中でも感じています。

○議長 ありがとうございます。ここにあれでしょうか、倍速派の若い方も。

○大畑委員 倍速派ではないのですけれども、葛飾はタブレットが全生徒に配られるようになって、オンラインでの授業というのが個人で受けられます。その子たちにとって不登校で行けなかった分を知識として学べる場所ができたということです。全部が無駄でなくて、環境を必要とする子に回っていくデータ、いろいろな情報が伝えられるというのは、あまり1つのことに絞り込む必要はないし、多くの各人の中でそれぞれが取り入れられるものをより多く充てていく。

生涯学習となると、会場に来れる方もいるし、来れない方もいる。そういう方の中で必要なときに必要なものが提供できれば、そういったものがオンラインで役に立つのかなど。必ずしもそこだけで止まらなくても、それを見た結果、次のところに行けるかもしれないし。情報提供の仕方というのを、いろいろと考えていく必要があると思います。

○竹高委員 それでいうと、例えば不登校の子など、そこで一緒に学習することが困難な子にとってはオンラインはすばらしいことだと思うのですが、その後、小学校、中学校不登校だった場合、高校にも進学できなくて、例えば何か夢ができたとしたら、高卒認定試験を受けたりとかしてステップ・アップしていると思うのですね。でもその中で、不登校になってしまうとコミュニケーションをとれなくなってしまうので、やっ

ぱり勉強に対しての意欲も落ちてしまったり、それで勉強できない子どもになってしまったりすることも結構あると思うのです。

だからその部分でいうと、オンラインが必ずプラスになるとは限らず、逆に逃げ道になってしまうこともあるのではないか。その段階によってすごく変わってくるし、教師側も、生徒側も思う部分というのは違うのではないかなと思います。

○大畑委員 私もそう思います。100%そこに賛成なわけではないのです。ただ、そういう情報の今まで届かなかったところが得られる。

○竹高委員 そうですね。

○大畑委員 それをきっかけにして出てくることも可能になっていくと思うのですね。そこに閉じこもるためにデータが見られるのではなくて、そういうデータを共有できることでみんなと一緒に話ができる状態をどこか作れる。やっぱり社会って個でなくて、団体の集まりがあって成り立つものだから、そういう社会の中に順応するためには情報だけは常に同じようなレベルにあったほうが出やすいと思うのですね。そういう面で、必ずそこで助かるとは思わないですけども、きっかけとしてはいいのかなとは思っています。やっぱり先生がそこに行って説明して、もしくは友達が行ってそこでやっているという、そういう環境があればいいのですけど、なかなかその環境が認められないとなれば、最低限の情報、データと知識は持てるというのはあると思うのです。

○竹高委員 そういう形、熊谷先生、学校でも持っているのですかね。

○熊谷委員 いろいろな形で双方向の関係性を持たせられるような環境は作りつつあるという状況です。一方通行ではなくて、それに対してどういう反応をしているのかというのを我々の側が吸い上げられるような環境はできています。ただ、まだそれを十分活用しているところまではいっていません。

例えば、家へ帰って宿題を家から提出するとき、今日までね、と言ったら11時59分までオーケーだ、という時代が来ていると思います。

○副議長 ちょっと外れるのですが、この間の教育振興基本計画のところで不登校の話が出てきました。ひきこもりの人、ニート、あるいはスネップと呼ばれている人が、葛飾区はどのくらいいるのでしょうか。1か月前に江戸川区のほうで公表しましたよね。そういう人たちを生産的にするように仕向けるのか、セーフティネットの中に入れてこられるようにするのかということも含めて、やはり考えなくてはいけないのではないかな、と思いながら参加していました。

○竹高委員 それを言うと横道にどんどんと……。

○副議長 今の話ですが、情報さえ与えればみんな輪の中に入ってくるのかどうかということなのです。情報だけで本当にいいのか。情報以外で、あと何ができるかということ、

多分バーチャルリアリティ的なところで、みんなが入っているいろいろな、そういうソフトみたいなものまでやっていると、情報発信者と情報の受け手だけでは多分駄目ですね。そういう意味でこれからのAIやバーチャルリアリティ、ミックスリアリティか分からないのですけれど、そういうデバイスを10年後にどう使うのだというのが、僕はもうちょっと話があっていいのではないかと思います。

やはり我々は、今後5年、10年先をどうしようかということ話し合わないと、今の状況だけ見て、明日どうしようと話をするのだったら、策定する必要はあまりないと思います。

○竹高委員 でも、それは本当に思います。

○副議長 したがって、生涯学習、生涯教育を考える会議の中でも、将来予測的な研究をしている人にも入ってもらって、社会はどのように変わっていきそうか、Aタイプ、Bタイプ、Cタイプを言ってもらえるような人も招いて、葛飾だったらどういうふうになりそうかという予測の上で、皆さんの知識を持ち寄って、それで計画を立てるのが必要なのではないかと思います。

○議長 むしろ今、野川先生が言ってくださったことというのは、次の議題にもつながってくることです。まとめの中で「記録」ということを初めに言っていますが、ずっとこの間、皆様にご議論いただいたのは、「記録」をベースにしながらやっぱりこれからどうしようという、今、ご指摘いただいたような話がどんどん出てきていると思いますし、お1人お1人が葛飾の実態に根差した未来予測をできる方なのかなと思っていますので、まさに「提言」という部分で、委員の皆様はその思いを、こういう未来というところにつながるご発言というのをお出しいただくのがいいのかなと思っています。

(3) 報告書の構成について

○議長 一旦生涯学習課の取組の振り返りをここで切らせていただいて、「報告書の構成について」というところをご提案させてもらえればと思います。

それでは資料の3を御覧いただきたいと思います。6月の会議で見ていただこうと準備していたものですが、補助金の審査で時間を使ってしまいましたので、今日ご説明となります。

まとめの形式は、「記録と提言」というところを、竹高さんをはじめいろいろな方にご指摘いただいて、この2本のほうがいいのではないかという形で書き直しました。

それから2番目の「構成案」というところも、全体構成は左端のところばかり見てい

ただくと、「はじめに」というところで、テーマと記録作成の趣旨、それから「記録」のところからカレンダーと各担当課の記録、そして「提言」、そして振り返り、今まで皆さんにお話しいただいたことを踏まえた委員の皆様お一人お一人から発する「提言」をお書きいただいて、そうした皆様のご意見、ご提案を踏まえて「総括」という形で全体のまとめを書くという、そのような構成にしたかどうかと考えました。

「留意点」というところは変わっていませんけれども、記録の作成、各担当課の協力ということで、これまでご報告いただいた各部署の役所の皆さんにもご協力を頂きながら、共通フォーマットを準備して記録にしていく、カレンダーをはじめレイアウトやデザインということが非常に重要になるので、そのイメージとして野川先生に「記録」の書き方ということで、カレンダーのアイデアをご準備いただきましたので、そちらを野川先生にご説明を頂ければと思います。よろしいでしょうか。

○副議長 簡単なものなのですけれども、左から右のほうに時系列的に進むということで、打ち合わせとか準備をいつからいつまでやって、その後に具体的な準備とかリハーサルをやったのだったらリハーサルを入れる。そして実際に実施できたものであれば、いつやって、何人の参加で、どうだったということを下に記述できるようになるでしょう。その後で振り返りは、次に向けての検討事項を矢印でどんどん入れていき、そこにコメントをつけていくような形にすると、大体時系列的にPDCA的なところは分かるのではないかなというようなスケジュール表みたいなものを作ってみました。

出発点は2020年の1月からでよかったのですか？これ、出発点が例えば5月からだったら5月、年度ということであれば4月からずっといって、2022年の3月だったら3月いっぱいいいので、全部で2か年にします。途中で中止を決めた場合、いつ決めたのだと分かるので、早すぎたのか、遅すぎたのか、視覚化できると思います。こういうもので主要プロジェクトに絞って、全部書くのは大変だと思いますので、各担当のところから生涯学習課、生涯スポーツ課などに最低5つぐらいは入れていただくと、視覚化ができるのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。目で見える形にどういうふうにしたらなるのだろうというところだと思うのですが、見れば見るほどいろいろなご意見も出て、こうしたら、ああしたらというのが出てくると思うのですが、まずご意見が出るためにといいますか、モデルをお示しいただいたのですが。

○竹高委員 この13期の社会教育委員として、12、13ということですね。その期間の最初からできる限りまでという形を報告はさせていただくのがいいのではないかなと。社会教育委員として動き始めた段階では、まだコロナはそんなではないわけじゃないですか。その間に私たちはオリンピック・パラリンピックも含めていろいろな形で動き

始めたところから、コロナ禍に入っていくという流れが見える形のほうが、区民の皆さんが分かりやすい状況なのかなと感じます。

やっぱり図で、1つにまとめていろいろなことが書かれていくみたいなイメージでいいわけですね。

○副議長 はい。

○竹高委員 そうですよ。だとすると、こういうことがあったけどやれた、できなかった、を含めて、こういうこともその中に世間の情勢も若干は入っていく形になりますよね。例えば緊急事態宣言ここからここまでみたいな。やっぱりその表というのは多分あまりまとめられるものではなくて、しかも区のいろいろな課がそこに書き込んであるもので進んでいくというのは、後々、こういうことだったのだなというのを見ることができていいのではないかなと思います。

○副議長 そうすると2019年からですか？

○竹高委員 そうなりますかね。

○議長 19年の4月からですね。

縦とか横とか、具体的にはまる向きとかというのはあるかと思いますが、それは一覧できる、目に見えてくるというのは大きな力なのかなと思います。

○竹高委員 これ、事務局の方が頑張って表にするのですか。

○議長 そこは作る側として、いかがですか。

○事務局 全部は難しいかもしれません。

○竹高委員 結構大変だと思います。

○事務局 例えば生涯学習課でも何十個も事業がありますが、その中で5個だけ選んで、どうやったかというのを2019年4月からの表に作ることは可能です。

○竹高委員 多分各部署でお願いしたら横並びで、フォーマットだけ決めればそこに差し込むことというのは簡単なはずなのですけれども、それを合体させる作業をどういうデザインにするかということになると、とても大変な作業になると思われるのですが。

○事務局 大島議長の案でいくと、各担当で、例えばA3の1枚を作るのは可能です。緊急事態宣言や社会情勢を入れるのは難しいかと思います。

○副議長 それは共通の時系列の流れになるので、一番上のところにやっておいて、真っ赤にしたりするところは緊急事態宣言ですね。

○事務局 でもカラーでは印刷を考えていないのです。

○副議長 赤にするか、黒にするか、それは別として、斜線にするかもしれません。いろいろな事業が各課でどのようになったというのが課別に1ページずつあれば、同じ緊急事態宣言のときには、みんな駄目だったことが後から分かるということではないかな

と思います。

○事務局 では、この上にもう1つ帯を作るということ。

○副議長 一番上のところにちょっと書いておけば、すぐみんなが分かる。

○事務局 その部分を野川先生が進めてくださるのでしたら、ありがたいです。

○副議長 やりましょう。

○議長 こういう年表的なものというのは、それこそ作る人の考えとかによってもいろいろなご意見が出てくると思うので。ただ、どうしようかといって作れるものではないので、一定、形まで示していただければ良いですね。

○生涯スポーツ課長 今、野川先生おっしゃっているものにするのと、例えばこの表の一番上のところにまず、時代背景が書いてあります。あとはそれぞれの課のところ、うちの課だったら大きなイベントとか、あとは地域スポーツクラブがどういうふうに運営していました、というのを、その時代背景に合わせた時系列で記入していくものがあるといいと。主要なことが4項目、5項目書けるようなページになっていけばいいですね。

○議長 そうすると資料3のところ、「カレンダーと記録」とあるほうで、カレンダーのバーで分かりやすいものとは別に、これまでピックアップしていろいろご発言頂いてきたような新しい事業とか、やめてしまったものを言葉で書ける部分というのが、1ページなり、1見開きぐらいにまとめると、目で見えるものを読んでちゃんと説明がつくものというので、セットになるのではないかなと思いますね。

○副議長 いろいろ工夫して何とかやり遂げたイベントと、どうにもならなかったのと、試行錯誤でいろいろやったぐらいの3つのパターンぐらいは出して、やっぱり急に言われたりすると、こうこうこうで大変だったというようなちょっとしたコメントを入れていただく。なんとか実施した場合はどここの例を聞いて、あるいは見て、こんな工夫をしたとか、そういうのが書いてあると、後の人たちが見て、ああ、こういうときにはどこで、この情報源をもらおうといろいろな工夫ができそうだということが分かればいいのではないかなと思います。

○議長 ちょうど午前中、教育委員会の事務事業の点検評価の会議に出させてもらっていたのですが、そのときにも「代替案」というので進めたというお話も出ていて、そういうのもちゃんと見ると、こういうふうに進めてきたけど、その形で行けなかったけれども、まさに野川先生がおっしゃったようなことも書かれると、こんなふうを実現できたのだなということまで残るので、すごくいいなと思います。

○竹高委員 だとすると最初に野川先生がベースを作って、下の表にエクセルできちんと書き込める表を各課に送って差し上げないといけないですね。

○副議長 いつまで、と言ってくれば作ります。

○竹高委員 スケジュール的に次回の会議が……。

○事務局 できれば、8月19日にそれがあつたほうがいいのではないのでしょうか。そうすると、なるべく早く各課にお願いしないと、作成に1か月ぐらいはかかると思うので。

○副議長 作ってみます。

○事務局 本当ですと8月19日の前に皆さんに、2週間前に通知を出すときにあるといいのですが、それはちょっと難しいと思うので、当日配付になるかと思えます。

○竹高委員 今月中に先生が頑張ってお作りくださると、私たちの手元に、19日にあつて、揉むことができる、ということですね。

○副議長 はい、分かりました。

○議長 そして、委員の皆様にもこれまでの振り返りを踏まえて、提言としたい、とりわけ自分で強調したいトピックというところの案、アイデアをお示しいただけると、なおいいかなと思えます。

○竹高委員 そうですね。

○議長 もしかしたらどこかの項目に集中するかもしれませんが、そのとき場合によっては分担していただいたり、あるいは重なっても構わないかとも思うので。そしてこれまでの取組の評価ということと、未来へ向けての提言ということにもなっていくかと思うので、完全な成文までは行かないにしても、8月に向けてはみんな宿題がある状態にできたらと思えます。

ただ、こういうふうを書いて、という宿題の注文の文言が今すぐにはできないので、ちょっと日を置いて後日連絡をさせていただければと思います。お心づもりをお願いいたします。

○生涯スポーツ課長 すみません、そのフォーマットが8月19日までにできるものなのか。もう各課に調査をして、各課の主要事業が入ったものが8月19日のところでは出さなければならないのか、どちらですか。

○竹高委員 各課にもう形を決めたものを、エクセルのファイルを渡してプラスにしたほうがいいので。フォーマットを7月中に先生が作ってくださるので、それが事務局に行ったところでそのフォーマットどおりに下を入れていただくのが一番いいと思います。

ただ、19日までに各課にお願いするのはきっと無理ですので、その次の会議に多分そのフォーマットに入力を各課にお願いしておくのでは間に合いませんか。

○事務局 資料4のスケジュール表をご覧いただきたいのですが。

○竹高委員 結局、9月20日ぐらいいままでに入力をお願いすることが可能ということですね。そうするとそれを9月30日に私たちは会議のときに机上で見ることができると

ということで。それまでに私たちは夏休みの間に自分たちが提言として書きたいこととかをまとめてくるという形で、9月30日両方集合したところでお話し合いをするという流れでしょうか。

○議長 いえいえ。

○事務局 ぎりぎりそういうスケジュールになるかと思いますが、12月9日の教育委員との懇談のときには、「記録と提言」がほぼできている状態で、それをお配りして、粗々こういう感じのものを作っていますというご説明をしながら懇談をしたいと思っていますのです。このままでは、厳しいのではないのでしょうか。

○竹高委員 今、もう既に厳しくなっています。前回は補助金の審議だけで終わってしまったというのが、一番痛いですね。1つ会議が遅れている感じがします。

○事務局 ちょっと焦っています。

○竹高委員 各課から上げていただいたカレンダー状のものには、何もクレームつけるところがないはずなのですが。

○事務局 クレームということではなくて、それを見て皆さんがまたさらにご意見があるかなど。ですから、表のほうをなるべく先に出したほうがいいかなど思っているのですが、難しいですかね。

○竹高委員 そういうことですね。

それがどれくらい見にくくなるか、見やすくなるか。

○事務局 表だけではなく、分析というか、1ページから2ページのどうだったという文章も書いてもらうのですよね。そちらは間に合わないかもしれません。

○竹高委員 そうですね。本当に時間がないのですね。

会議をもう1回ぐらい増やしたほうがいいのかではないですか。

○議長 11月が飛んでいるのですね。

事務局には、もう1回開催の余地というのはあるのでしょうか。

○事務局 こちらのほうは、もちろん皆さんが集まっていたら設定をします。

○竹高委員 すみません、振り返りを踏まえてということの各委員からというのは、各課に対して1枚は書かないといけない形にはなっているのですよね。そうすると、生涯学習課のこのことについての意見を、何人もが書いてしまうということになると、どうかね。例えば、大きく6つに各課の記録として分けて、6人が分担して書くということではよろしいですか。

○議長 カレンダーが出る前にも、これまでお話を伺っていて、ご自身、お一人お一人特にいろいろ考えを持ったというところもおありだと思うので、その項目だけでもまずお出しただいて、重なりが少なければそのままでもいいと思いますので。一人ひと

りの視点を大事にしたいなと思います。「満遍なく」というところをあまり目指さなくてもいいのかな。遺漏があれば最終的な「総括」というところで、僕らのほうで聞き取りできればいいかなと思います。

○竹高委員 書かないところがあると困るから、最終的には満遍なくとなりますよね。

○議長 はい。

○竹高委員 その部分でどれぐらいのボリュームで書いていくべきなのか。それを8月19日にきっちりと決めるという形にすればいいということですか。

○事務局 皆さんのほうで10日前ぐらいまでに出していただければ、皆さんに郵送できます。

○議長 そうですね、項目やアイデアは先に出してもらえたら。

○竹高委員 前期の報告というか、提言でしたけれども、それをやっぱりまとめるときには大体自分たちが書きたいこと、思っていることをまとめたものを皆さんで言葉尻だとか、全部整えていくという作業を1回作ったので。やっぱり文章的にもつながっていないとおかしいので、そこら辺のところもつなげないといけないと思うのです。

そうすると、課の担当はどなたという形にして意見を書いてくるのと、自分が思うところを書いたものを8月19日までに事務局に送っておいて、その中でいいものだけをマッチングさせていくみたいな形と、方法論は二通りあるのかなと思っているのですけれども。どちらのほうがいいでしょうか。

○議長 僕のこの当初のアイデアは、お一人お一人の見解という形を出してもらったらいかなと思った。

○竹高委員 そうすると、何課という枠組みではなく、委員ごとにトータルで見解を述べていく。この委員がこれを書いたというのがはっきり分かるような形で。

○議長 そうです。

○竹高委員 私が言ったのは、課の担当を決めて意見を書くのと、自分が思っていた意見を全ての課に対して皆さん意見を出して、その中でいいものだけをマッチングさせていく、2通りですけれども、議長のおっしゃっているのはまた別で、トータル的なところで意見を書いていくということですよ。

○議長 どちらのほうを書きやすい、あるいは出しやすいとありますか。

○大畑委員 正直言いまして、私は最初の頃の提案が全部もう飛んでしまっていますので、思い出すのがちょっとつらいです。ですからどの課の誰のものではないけれども、そういう細かく書くとなると非常に、広くはちょっとできないなと思っています。ただ、この課について目指してきたもの、そういったところの自分の振り返りとしては、思いは書けると思うのです。ただ、1個1個返してというと、年表を見て、データを見て、

そうだな、あのときこんなことをやったなというのを思い出しながらでないを書けそうもないなという気がします。

○議長 ありがとうございます。僕も個々の状況については、記録のほうから見る事ができるので、そういうことを踏まえて全体を捉えて、委員の皆さんのお1人お1人の思いということをご自身の言葉でもらえたほうがいいのではないかなと思ったのです。それを踏まえて、正副の議長ということで僕らがもう一度全体を引き取って総括とすると、全体を見渡してということもできるのかなと思うのです。

○竹高委員 どちらにしても、会議録とかも資料を全部見直した中で、自分がどういうふう感じた感情も思いながらでないとまとめることはできないと思います。

○大畑委員 議事録を見て、何回か休んでしまっているんで、議事録を見ながらつながりをイメージだけで、抜けていることもあって、その上忘れていた部分もあります。

○竹高委員 それは皆さん一緒です。

○議長 でも、そのうえで残ったものを強調して書いていただいたほうがいいのかと思うのです。今、口で言っているだけではなかなか分かりにくいと思うので、野川先生のフォーマットと同じタイミングには皆様にもう1回、このようにお出し願いたいということを出させていただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。

そうすると、この後、フォーマットの提示、それから皆さんへの課題の提示ということとをさせていただければと思います。

(4) 今後の会議の進行について

○議長 では、4番目の「今後の会議の進行について」ということで、事務局のほうで確認があればお願いします。

○事務局 先ほど見ていただいたスケジュールのとおりで、次回は8月19日金曜日の午後2時からということをお願いいたします。区役所の教育委員会室で行います。

もう1回会議を増やすかもしれないというお話が、先ほど途切れましたが、場合によっては11月ぐらいに開催しますか。

○議長 11月18か25ぐらいでしょうか。

○事務局 委員の皆様は、いかがでしょうか。

○議長 できれば25にしておいていただいたほうが、いろいろ動けるかもしれません。11月25日の金曜日に、1回増やしたいと思います。

(5) その他

○議長 では、「その他」ということで何かありますか。

3 にこわ新小岩（新小岩地域活動センター）の視察

○議長 よろしければ、3番目の「にこわ新小岩の視察」に移りたいと思います。

○生涯学習課学び支援係長 施設を見ていただく前に、概略を生涯学習課長から説明させていただきます。実は、生涯学習課長は3月まで地域振興課長だったので、この建設には深く関わっていました。

○生涯学習課長 お手元に、「にこわ新小岩」という白い冊子と、「葛飾区子ども発達センター新小岩分室」という2つのパンフレットがあるのですが、主にご説明するのはこの白いほうです。時間がないのでポイントだけお話をし、その後に皆さん荷物を持ってもらって現地に行き、ご覧いただいて現地解散という形になるかと思うのですが、そんなスケジュールでよろしいでしょうか。

○議長 はい。

○生涯学習課長 では、概略説明をさせていただきます。

まず経緯でございます。この「にこわ新小岩」というのは、新小岩学び交流館と、上平井保育園、児童会館、新小岩保健センターの建物が古くなって、バリアフリー化もなかなかできていないというところから、平成25年ぐらいからまとめて1つの大きな建物を建ててはどうかという検討が始まりました。29年には改めて子ども発達センターも入れたほうがいだろうというご意見を頂いて、最終的に今の形になったというところが簡単な経緯でございます。

その後、この建物を建てるに当たっては、大きな特徴として、これまではただの合築施設ということで、いろいろな課が寄せ集まった建物を作ってきたのですが、今回の施設はそうではなくて、今、申し上げた公共施設のそれぞれの機能を効果的、効率的に複合化するというので、それぞれの事業のメリットを出そうということで作ったものが基本方針になっています。

ではなぜ「にこわ」なのということですが、“にこにこ”＋“輪”ということで、笑顔の輪が広がるような場所になるように「にこわ」という名称にしまして、その後に場所が分かるように「新小岩」というのをつけて「にこわ新小岩」としております。これは公募で幾つかの案の中から絞って愛称を決定したところでございます。

実際これから施設を見ていただきますが、建物については鉄筋コンクリートの地上4

階建てです。床面積としては約5,100平方メートル、敷地としては約6,800平方メートルです。建築工事費としては、約27億円です。駐車場は、有料駐車場が13台、障害者用の駐車場が2台あり、駐輪場と検診車が置けるスペース等があります。

具体的にどんな建物が中に入るかということで、パンフレットを開いていただきますと、「新小岩地域活動センター」が水色の部分です。2階と3階にある、貸し館施設です。そこには、1、2、3という数字が入っている活動室や、視聴覚室、調理室、スタジオもございます。2階に降りますと、一番大きく目立つのが真ん中右側にある多目的ホール、その下にレク・イベントスペースがございます。

多目的ホールの左側に、活動室1と2、水色とピンク色が半分ずつ斜めに入った部屋があると思うのですが、それは、「子ども未来プラザ」という、以前の児童館機能として、子どもたちが来ていろいろな遊びだとか、様々な事業の中で使っていく機能を優先して、集会室としても使うという中身になってございます。

2階は、「子ども発達センター」で、これは通所の療育施設です。1歳6か月から就学前までのお子さんが、中度から重度の医療的ケアの子どもさんを含みます重症心身障害の子どもさんたちをみる施設で、定員が1日24名程度です。

1階は、「新小岩保健センター」が移ってくるということで、保健センターの機能も入っています。

また、「子ども未来プラザ西新小岩」は児童館機能もあるのですが、妊娠期から子どもが成人するまで切れ目のない支援を行うということで、子育て相談や、妊婦さんとママの催しだとか、子育て広場や、あそび・まなびの広場というのも併せて設置しているところです。

また、一番下には「上平井保育園」があります。0歳から5歳児までで、定員は146名になっています。実は、「園庭」と書いてあるところが、今、学び交流館と上平井保育園がまだ建っています。その園庭は現在できていないのですが、来週の7月19日に保育園がオープンします。

その後に今ある建物の解体を進めていき、最終的に外構が完成するのが令和5年の秋ということです。その時がグランドオープンとなります。施設内については、7月19日からそれぞれの事業が入りまして、オープンとなります。

そんなところでイメージを作っていた中で、実際に建物を見ていただければなと思います。実際建物は4階なのですが、4階は機械室や電気室がありまして、一般の方が入れないフロアになっています。水害のときに、電気室は上のほうに置く必要があるだろうということで設えています。

特徴として、皆様よくご存じのとおり、葛飾は水害が多い地域でございまして、この

地域も大きな台風が来ると水が出る可能性もあります。その中で、この建物については水害が想定されたときに、2階に水が上がってくることを想定して、船着き場があります。2階の柵を倒していわゆる舟が出せるように船着き場の機能を持っています。そんなところを見ていただければなと思います。説明は、以上です。

では現場に行きたいと思います。

— 閉会 —

移動

視察